

令和元年度 事業報告

I. 概要

わが国の総人口は平成20年の1億2,808万人をピークに減少局面を迎えています。令和元年9月15日、65歳以上人口は、3,588万人。総人口に占める割合である高齢化率は28.4%、総人口・労働力人口の減少も伴って、高齢化はさらに進展する見込みとなっています。

国は、「一億総活躍社会」の実現に向けて「働き方改革」に取り組み、平成30年6月29日労働基準法等改正案が可決成立しました。主に現役世代の働き方について、労働時間、有給休暇、賃金、衛生管理など多方面にわたっています。

高齢者の就業については、活力ある社会を構築するためには、“年齢にかかわらず生き生きと働ける社会の実現に向けた取り組みが不可欠であるとし、高齢法の改正により、企業による高齢者の継続雇用が進んでいます。

我が国の高齢者就業の状況は、65歳～69歳の就業率では、男性52.9%、女性は33.4%、欧米諸国と比較すると高水準となっています。高齢者雇用が進む一方、現役世代の就業人口が低下し、人手不足が企業にとっての課題となっています。国は外国人労働者の受け入れを拡大するなどしています。こうした状況を受け、シルバー人材センターへの各方面からの期待が高まっている状況が続いています。

令和元年度における練馬区シルバー人材センターの事業活動は、平成29年度に新たに設けた「中期事業計画（平成29年度～平成31年度）」に基づき策定した「平成31年度事業計画」により実施しました。

計画のうち、主な項目として、①会員の項目では、発注者に信頼される会員を目指して、倫理研修や接遇力向上研修などを実施しました。また、②地域社会への還元の項目では、「認知症」「口腔ケア」「防災」などをテーマに、区民の方々も自由に参加できるブロック事業を実施しました。清掃ボランティアは全15班で実施されました。③組織の項目では、組織強化の一環として、地域班組織の充実のため平成30年度に引き続き班会議を利用した会員交流・懇親機会を設けました。

令和元年10月には消費税の改定が実施され、料金改定、会員・お客様への周知活動を実施しました。また、令和元年秋には台風15号、19号により就業会員に影響がでました。令和2年2月より、新型コロナウイルス感染症がわが国でも発生しました。そのため、小中学校の休業に伴う会員就業の休止やセンター事業の一部休止等を行うなど影響がありました。

つぎに、事業実績等についてご報告します。まず、会員数の動向では、対前年度比63人減の3,626人と、微減の状況となりました。令和元年度中の新規加入者は472人（男性296人、女性176人）、退会者は535人（男性322人、女性213人）でした。入会理由は生きがい、社会参加が最も多く、退会の理由は病気が最多でした。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、3月の入会説明会を中止としました。

令和元年度の受託件数は21,264件（公共590件昨年同、民間20,674件0.98%の増）で対前年度比200件、0.95%の増。民間は増加しましたが、継続的に安定した新規発注は数少なく、民間単発などが増えています。令和元年度の契約金額は1,389,013千円で、対前年度比819千円、0.06%の減となり、前年の3.80%の増に比べ減少しました。契約金額では、公共累計571,127千円で対前年度比2,831千円0.49%の減、民間累計では817,886千円で対前年度比2,012千円0.25%の増となっています。新型コロナウイルス感染症の影響で、3月の契約金額が約2,500万円減となり、年度末の合計で過去7年間増額であったが今年度は減少しました。

公共と民間の割合（公民比）は、件数では2.77%対97.23%で圧倒的に民間が多い状況は変わっていません。契約金額では、41.12%対58.88%となりました。

令和元年度の就業実人員は2,663人で、年度末の会員数で割った就業率は73.44%（男74.14%、女72.16%）で、実人員は対前年度比35人の増、就業率は2.24ポイントの増となりました。

平和台事業所の事業実績は、契約金額24,519千円と前年度比266千円の減となっています。一人あたりの配分金では月額約51,206円となり、昨年度の実績を上回りました。

“お困りごと支援事業”に加え、介護保険制度の地域生活支援事業として、平成28年度より受託した「シルバーサポート事業」を継続して実施し、合わせて567件の利用が有りました。また、平成29年度から実施している「元気高齢者介護施設補助事業」については、平成30年度から区内特別養護老人ホーム29施設に加えグループホームで実施し、令和元年度はさらに対象を老人保健施設に広げ、合計45施設64名の会員が就業しました。

平成30年度から開始した派遣事業では、令和元年度の受託件数は87件で対前年度比71件、444%の増。契約金額は8,059千円で、対前年度比5,816千円、259%の増となりました。

以上、事業運営の概略を述べました。契約実績は長期的な見通しの中で楽観視できる状況には至っておらず、今後も安定的に継続契約を希望する民間の新規発注者の開拓に力を注ぐとともに、派遣事業により就業開拓に力を注ぎます。

Ⅱ. 実施事業の詳細

1. 普及啓発活動

東京しごと財団の広報活動計画およびブロック各区と密接に連携し、積極的に普及啓発活動を行いました。

「練馬区高齢者生活ガイド」、「練馬区老人クラブ連合会会報誌」などに、シルバー人材センターの仕組みや会員募集の広告を掲載いたしました。また、平成28年度から開始した練馬区の介護予防事業「はつらつシニアクラブ」に理事、職員が参加してパンフレットの配布や相談対応をしました。

また、令和元年度から区内の4か所のはつらつセンターに専用の「情報掲示板」を設置し、情報発信を行いました。

10月の広報活動強調月間には、練馬区役所1階アトリウムでのパネル展、練馬まつりに参加し、シルバー人材センターのPRを行いました。鉄道駅への広告に加え、路線バス2台の後部にラッピング広告を掲示しました。

その他、従来から引き続き実施した普及啓発活動は次のとおりです。

実施項目	実施内容	実施時期または回数
区広報紙へのPR記事掲載	区が発行する「ねりま区報」を活用し、区民への普及啓発に努めました。	随時
練馬区役所1階アトリウムでのパネル展	センター事業のPRおよび会員募集に努めました。	9月から10月 1回
機関誌の発行	「こぶし」、「事務局だより」を発行し、情報の提供、会員相互の連帯の拡大などに努めました。	こぶし（会報） 1回 事務局だより 12回
街頭宣伝	センターの宣伝文入りティッシュペーパーをイベント等で配布し、センター事業のPRに努めました。	清掃ボランティア 随時 練馬まつり 1回
リーフレット（案内書）の作成配布	センター事業の案内書（全シ協、財団、当シルバー作成）を区施設の窓口等に置き、PRに努めました。	随時
会員等による口コミPR	就業の機会や各種会議を活用したチラシの配布等、センターのPRに努めました。	随時
区内報道機関によるPR	区内報道機関へ情報提供し、記事の掲載等PRに努めました。	1社 4回
センター「ホームページ」の活用	ホームページを改善し、会員、顧客の需要（期待）に応えられるように努めました。	常時
区内関係団体等との連携	産連、商連、法人会、社会福祉協議会ボランティアコーナー等と連携し、就業支援事業の拡大に努めました。	随時
駅における広告宣伝	西武線練馬駅および石神井公園駅ホームの広告掲示板を活用し、PRに努めました。	常時

高年齢者就業相談所との連携	ワークサポートねりま、都内ハローワークや東京しごと財団等と連携し、就業に関する情報提供に努めました。	随時
はつらつセンターへの情報掲示板の設置	区内4か所のはつらつセンターに専用の「情報掲示板」を設置し、入会説明会の案内など情報発信を行いました。	随時

2. 相談業務

未就業会員を対象に、個別終業相談を開始しました。

毎月1回、事前予約により代理、次長、係長が対応しました。

実績は4月から2月 相談者33名 就業開始者11名

3. 就業の開拓（開発）および提供

会員の就業機会を確保し、適正で公平な就業機会の提供を図るため、次のような活動を行いました。

- (1) 特定事業については、「会員の就業に関する要綱」の目的に沿って、多くの会員が公平に就業できるよう機会均等に努めました。
- (2) 刃物研ぎ事業は、新規就業会員の確保に向けて講習会を実施するとともに、事業拡大を目指して新規実施箇所の開拓を積極的に行いました。
- (3) 教室事業については新たな教室事業の立ち上げや拡充を進めるため、要綱を統一しました。新規教室の募集を行い、新たに4教室を開講しました。
- (4) 家事援助、英語・英会話教室講師、除草、大工・塗装・表具・壁紙・ハウスクリーニングの会員募集を行いました。

4. 事業の効果的な推進

令和元年度に各種会議を開催し、センター事業の効果的な推進を図りました。

- (1) 定時総会 (別表1)
第9回定時総会（令和元年度）開催 令和元年6月21日（金）
- (2) 三役会 13回
- (3) 理事会 14回 (別表2)
- (4) 専門部会
 - ① 広報部会 3回
 - ② 安全管理部会 5回
 - ③ 地域班部会 2回

④ 事業部会	2回
⑤ 会報「こぶし」編集委員会	4回
(5) 合同会議	
理事・監事、参与、班長、女性幹事	4回
(6) 地域班会議	15回
(7) 職群班会議	
① 教室事業運営委員会	1回
② 刃物研ぎ実行委員会	1回

5. 研 修

会員、役員の就業に関する知識や技能の習得と教養の向上を図ることを目的として、センター独自の研修を実施するとともに、第3ブロック共同研修および東京しごと財団が主催する研修を活用しました。また、接遇力向上のため、各職種別に接遇研修を実施しました。（別表3）

6. 会員の安全対策および健康保持対策

安全就業と健康対策を推進するため、次のようなことを行いました。

- (1) 会員の安全就業を推進するため、随時、就業現場の巡回指導を行い、事故の発生防止に努めました。
- (2) 新入会員募集の入会説明会において「安全就業のしおり」を配付し、安全就業の徹底を図りました。
- (3) 交通事故をはじめ安全対策情報を事務局だよりで周知しました。
- (4) 会員の自転車利用の実態把握をするため、自転車利用アンケート調査を実施しました。
- (5) 就業中に会員が救急用品を携行し、けがの重症化を防ぐため、就業会員に救急セットを配付しました。

事業報告の附属明細書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項」及び「定款第40条第1項第2号」に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人 練馬区シルバー人材センター 会長/ 山下 越子